

[専門教育科目/看護の基本]

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
看護体験実習	NSP11_002	必修	1	1	前期
担当教員	研究室	電子メール ID	オフィスアワー		
平尾 眞智子 他	401	m.hirao	月曜日～金曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	この科目は、「早期体験実習」ともいわれ、保健医療福祉の実践活動を知ることを通して、今後の自分の学修に対して意欲をもって学修を続ける動機づけのために実施される体験型学習の方法である。入学後、看護の学修（看護学概論など）を開始したばかりであるが、今学んでいることが我が国の保健医療福祉体制（地域包括ケアシステム）の中で、どのような位置づけにあるのかを確認する。また、自分自身が今後看護職を目指すために身に付ける知識・技術に対し、どのように学修を重ねていく必要があるか考えることができることを目的にしている。				
学習上の助言	看護学概論で、学んだ「看護とは」「社会の変化と看護の役割機能」「保健・医療・福祉の連携」について復習し、さらに地域包括ケアシステムについて調べておくこと効果的な学修につながる。				
教科書	看護学生してはいけないケースファイル—臨地実習禁忌集—編：下司 映一 他/丸善出版/2013				
参考書	必要時紹介する				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
①	地域包括ケアシステムの概要を説明できる		NS(2)(3)		
②	地域の高齢者が元気に活動する様子を知り、健康増進や介護予防の必要性を理解できる		NS(1)(2)(3)		
③	健康増進及び介護予防、医療を必要とする対象者に関わる地域の看護職の役割を説明できる		NS(2)(3)(4)		
④	地域における病院の役割及び地域連携室の役割について説明できる		NS(2)(3)(4)		
⑤	高齢者施設の種類とその役割機能について説明できる		NS(2)(3)(4)		
⑥	看護活動の場及び対象者の多様性について説明できる		NS(1)～(4)		
⑦	看護職を目指すためにどのような学修を重ねていく必要があるか考えることができる		NS(5)		
授 業 計 画					
1. 実習時期と期間 1年次前期 1週間（月～金）					
2. 実習方法 原則、学内での実習を行う （詳細なスケジュールは、実習オリエンテーション時に説明する）					
3. 実習内容 1) 実習オリエンテーション 実習の目的や目標、スケジュールを理解し、主体的に学ぶ準備を行う					
2) 地域包括ケアシステムについて学ぶ（講義）					
3) 地域で生活する高齢者を理解する（在宅・施設）（講義・演習）					
4) 地域における看護職の役割機能について知る（講義）					
5) 地域における病院の役割機能を知る（講義・演習）					
6) 地域における障害児やその家族への看護を知る（講義・演習）					
7) 学習成果のまとめ、発表会（個人課題・グループワーク・全体発表会）					

[専門教育科目/看護の基本]

学習課題・学習時間（時間）							
<ul style="list-style-type: none"> 日々の実習記録 指示された課題および実習中の日々の学びや考えたことを、指定した記録用紙に書いてまとめる。 疑問点はなるべくその場で質問し解決するとともに、自主学習においても調べる習慣を持つ。 実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。 							
						必要時間： 5時間	
達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
0		50	25	10	15	100	
総合力指標	知識・技術力	0	5	0	0	0	5
	思考・推論・創造する力	0	15	0	5	0	20
	協調性・リーダーシップ	0	0	5	0	5	10
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	0	15
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	15	5	5	5	30
	問題を発見・解決する力	0	5	5	0	0	10
評価のポイント							
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点				フィードバックの方法	
レポート	①	✓	実習のまとめとして、実習終了後にレポートを提出する。テーマおよび字数等の様式など詳細については、実習オリエンテーション時に配布する実習要項を用い説明する。				テーマに基づいた内容であることを確認し、コメントする。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
成果発表	①	✓	実習を通して体験したことや感じたことをグループで話し合い、学びや今後の学修への課題をまとめる。その後、全体で発表する。				グループ発表内容に助言を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
ポートフォリオ	①		実習記録をファイルにて整理し、レポート提出時は指示された内容に従い実習記録が整えられたものを提出すること。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
	⑥						
	⑦						
その他	①	✓	実習における姿勢や態度については、日々の課題学習や記録への取り組みなどを含めて総合的に評価する。実習前から自己の健康管理を行い実習に臨むこと。				十分な学びの機会が得られるよう、実習への姿勢や体調管理について適宜指導を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
	⑥	✓					
	⑦	✓					
備 考							
担当教員：平尾眞智子、山崎洋子、石野徳子、望月宗一郎、藤井充、窪川理英、小林美雪、溝口孝美、森川三郎、山田真衣、堀口まり子、佐野宏一郎、田中深雪、渡邊美樹、伊丹幸子、山崎さやか、吉岡睦世							
この科目では、これから学修していく看護学を広い視野で捉え、看護を必要とする人々のニーズを肌で感じ取りながら、みなさんが今後の大学での学修意欲を高められることを目指しています。初めての実習で緊張すると思いますが、積極的に自分から学ぶ姿勢を身に付けてほしいと思います。登校の際は、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守してください。今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性があります。							